

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	アウトリーチ型居場所事業
事業名(副) <small>※任意</small>	10代の若者のための移動式居場所確保事業

入力数 主 12 字 副 20 字

実行団体名	一般社団法人子どもソーシャルワークセンターつばさ
資金分配団体名	中国5県休職預金等活用コンソーシアム

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>
------------------------	--------------------------

入力数 0 字

SDGsとの関連

ゴール
_1.貧困をなくそう

実施時期	2021/7/1 ~ 2021/12/1	事業 対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> 岡山県倉敷市)	事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	10代の若者	事業 対象者人数	30人
------	----------------------	------------	--	---------------------------------------	--------	-------------	-----

I.団体の社会的役割

(1)団体の目的
一般社団法人子どもソーシャルワークセンターつばさ（以下「当法人」）は、2016年に設立。現在は、岡山県倉敷市内を中心に活動している。子どもの居場所づくり事業などを通して、個別に困りごとや生活状況などを聞き取り、生活支援などの適切な支援を実施、または公的機関や民間支援団体のもつ既存のサービスへつなぎ、地域の中で家庭が孤立しないように支援を行うことを目的とする。
(2)団体の概要・事業内容等
当法人は子ども達が安心して育つことのできる地域づくりを目的に掲げ、以下の事業を実施している。「子どもの居場所づくり事業」は、経済的困窮家庭、不登校などの小学1年生から高校3年生までを対象とし、生活支援を行う。「アウトリーチ型の子どもの居場所事業」は、家や学校に居場所のない中高生を対象とし、月に一度屋外で実施。どちらも子ども達にとって第3の居場所となるよう活動し、支援へつなぐ窓口的な役割を担う。

入力数 (1) 180 字 (2) 198 字

II.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
新型コロナウイルス感染症の影響により、岡山県内でも失業や、就業時間の短縮、それらによる経済的困窮を抱える家庭が増加した。県内で実施された「夜の街で働く親の生活実態調査」では、78%の人がコロナの影響があったと回答しており、「仕事がなくなったり、少なくなったりして収入が減った」「頼る相手がいない」という回答があった。また、昨年春の休校措置で子ども達のストレスも増大し、家庭内暴力の増加なども課題となっている。在宅時間が増加し、外出の機会が減った今、以前に比べて家庭内の状況が見えづらくなっており、周囲からは気づかれにくくなっている。 当法人も携わるフード&ライフドライブに関わった家庭からは「子どもと2人で死のうと思った」「コロナ以前から困っている、誰も助けてくれない」などの声を聞いた。MUSUBIで出会った中高生からは、「家に帰りたくない」「親がずっといて息が詰まる」「今日どこか泊まる場所ない?」という声を聞いた。また、LINEで受けた相談には「保護者から暴力を振るわれており、休校で学校へ行けず、支配下におかれ、電話相談や来所相談はできない」という声も聞いた。 子ども達の中には、家や学校が安心できないと感じていたり、助けてほしいが家族や友人、教員などには相談しづらい子どももいる。相談したいと思っても、行政はハードルが高く、年齢の離れた大人とは話したくない子ども達もいる。現在、岡山県ではDVや虐待から避難したいと思っている子ども達を含め、家に帰れない事情のある子ども達が一時的避難や宿泊できる場所がない。子ども達を支援するには、彼らのニーズに応じたものかつ、休日や夜間、SNS相談などの彼らの生活スタイルにあった支援が必要であり、彼らが気軽に相談できる年齢に近い支援者や、一時的に宿泊も可能な設備が必要である。今の時代を生きる子ども達に合った多機能型の支援施設が求められている。

入力数 796 字

III.事業内容

<p>(1)事業の概要</p> <p>ヤングケアラーや、家や学校に居場所がないなどの理由を抱え、夜の街を歩く10代の若者を対象に、人目を気にせず一時的に避難できる居場所を提供するため、車両を購入する。車両取得後は、アウトリーチ型の子どもの居場所事業（通称：MUSUBI）に用いて、専門職スタッフ（司法書士や弁護士法人に勤める社会福祉士など）と連携し、利用する若者が望むもしくは緊急性が高い場合は、課題の解決に向けて伴走できる居場所を目指す。車両納車前は、事業へ反映させるため、MUSUBIを利用する若者などに対し、居場所支援に関するニーズ調査を実施する。また、MUSUBIに関わるボランティアスタッフの育成・確保に向けた研修会を実施する。</p>
--

入力数 300 字

<p>(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態</p> <p>本助成期間中に作成した事業計画に基づいて、キャンピングカーを用いた移動式の居場所づくりを実施する。現在実施している地域だけでなく、ニーズの高い地域や支援団体のない地域においても活動を実施し、10代の若者と出会う場を広げる。気軽に立ち寄れ、安心安全に過ごせる居場所を目指す。現代の若者が抱える問題が深刻化する前にキャッチし、相談支援だけでなく、関係機関と連携しながら若者が必要としている支援につなぐ。</p>
--

入力数 199 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
キャンピングカーによる移動式の子どもの居場所をつくり、10代の若者が悩み等を打ち明ける場所、安心して休める場所を提供する。キャンピングカー取得予定の12月以前には、MUSUBIにおいて10代若者に対する調査を実施し、支援ニーズを明らかにする。	①開催回数 ②利用人数 ③相談対応人数（全体利用人数の2割） ④ニーズ調査件数 ⑤ボランティアスタッフの増員	①開催記録作成する ②利用した若者に支援メニュー表を配布し、人数を把握する ③相談対応記録を作成する ④調査票の回収 ⑤ボランティア登録	①1回以上 ②5人以上 ③2人以上（利用人数の2割程度） ④30件以上 ⑤3名以上（2名は女性）	2021年12月 2021年12月 2021年12月 2021年12月 2021年12月

(4)活動	時期
車両の見積り、発注	2021/7/1
必要物品の購入（寝具や充電器類、ケトルなど居場所で寝食が可能となる物品の購入）	2021/7/1
実運営に向けた事業計画の作成① ニーズの高い地域をピックアップして開催場所を検討（支援団体の少ない地域など）	2021年8月～11月
実運営に向けた事業計画の作成② 車両を使って活動できる場所を検討・確保	
実運営に向けた事業計画の作成③ 複数の開催場所を視野に入れたスケジュールの作成	
実運営に向けた事業計画の作成④ 家に帰れない事情があるなどの10代の子も達に無料で軽食等を提供する	2021/8/1
ニーズ調査に向けた調査票の作成（現在「MUSUBI」で使用している利用メニュー票の修正を予定）	
現在MUSUBIを利用している中高生を中心にニーズ調査を実施	2021年9月～10月
ボランティア研修会企画準備、ボランティア募集	2021年10月～11月
ボランティア研修会の実施（当法人のスタッフによる、新規ボランティア説明会・ワークショップなど）	2021年9月～11月
車両取得、車両を用いた居場所づくりの実施	2021/12/1

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	(a) 相談支援員：居場所内での相談支援 (b) 事務局員：当事業の経理等を担う (c) ボランティア：居場所設置や居場所を利用する若者の対応など
(2)他団体との連携体制	子どもに関わる専門職で構成される「こどもを主体とした地域づくりネットワークおかやま」と連携し、司法・教育・就労などの個別支援を行う。
(3)想定されるリスクと管理体制	想定リスク：施設内における暴力行為、物品紛失、金銭トラブル、性的問題行動、保護者等加害者の接触 管理体制：施設利用ルールの作成・周知、個人情報保護としかるべき関係機関への報告